

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】児童生徒一人ひとりの「自立と自己実現」に向けて教育実践するとともに、地域社会に対しても「多様性社会の実現」を推進できる学校

*その実現のために、《チーム光陽！つたえる・分かち合う・つながる》を合言葉に、以下の4点について連動させて取り組み、「好循環な学校」を作る。

- 1.【基礎】安全安心な校内体制構築の実現。～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校～
- 2.【実践】質の高い授業実践の実現。～主体的な学びを大切に、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた質の高い授業実践ができる学校～
- 3.【組織】質の高い教員集団の実現。～学校組織として支援教育の専門性を高め、一人ひとりの教職員が学び続け、チームで協働できる学校～
- 4.【発信】多様性社会の推進と実現。～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、すべての人が自分らしく生きていく社会の実現に向けて使命が発揮できる学校～

2 中期的目標

1.【基礎】安全安心な校内体制構築の実現(安全安心力の向上)～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校～

- (1)「学校生活のあらゆる場面で児童生徒・教職員の人権が尊重される学校」を実践・実現するため、「人権尊重の教育」を推進する。
- (2)児童生徒の「心身の健康」を守り、児童生徒・保護者・教職員にとって「安全安心な校内体制と医療的ケア実施体制」を構築する。
 - ・児童生徒の「心身の健康」を守るために組織として「報告・連絡・相談・連携」等の体制を維持する。(R5～R7の3年間 基礎基本の再構築)
 - ・人工呼吸器の管理等、高度な医療的ケアも含めたすべての医療的ケアが、安全安心に行えるための環境整備を行い、校内体制を構築していく。
- (3)学校における「危機管理体制」を強化し、事故・事案の未然防止に努める。また、万が一発生した時には、児童生徒・保護者・教職員へのリスクを最低限にとどめる。
 - ・危機管理関係の手引きを社会の変化に対応した形で「学校における危機管理の手引き」や「業務継続計画(BCP)」等を整理・集約し、実効性を追求して改善する。
 - ・「大災害発生時」においても児童生徒・教職員の「命を守る」対応ができるように、「学校防災アドバイザー」等を活用し、組織として準備する。
 - ・施設設備の点検、備品等の管理を徹底し、安心して学べる環境を整える。

2.【実践】質の高い授業実践の実現(授業実践力の向上)～主体的な学びを大切に、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業実践ができる学校～

- (1)学習指導要領を踏まえた学校全体の「教育課程」について確認し、俯瞰的視点を持って「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の目標を達成できるように実践する。
 - ・「光陽グランドデザイン」を全教職員で意識し、肢体不自由部門小・中・高・病弱部門でつながりをもった教育実践を推進する。
 - ・「第二次大阪府教育振興計画」「府立学校に対する指示事項」「学校経営計画」「光陽グランドデザイン」「シラバス」「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」をつなげて実践する。「個別の教育支援計画」(R5から新様式)を活用し、「全体から部分」「部分から全体」を常に考えて実践し、個のニーズを実現する。
- (2)主体的な学びを大切に授業実践(観点別評価含む)を実現するため「研究授業」や「授業振り返り研修会」「教職員間の授業参観週間・交流会」を充実する。
 - ・定期的に学年・学部で話し合い、授業力向上及び授業改善のための大切な観点を共有し、新たな気づきや学びを「明日からの授業」に活用する。
 - ・各教職員の「経験年数に応じた学び」や「教科等に応じた学び」を充実するために、学部を超えて相互に授業観察ができるシステムを構築・定着する。
- (3)自立活動における専門性の向上を図るための取り組みを行う。
 - ・肢体不自由や病気のある児童生徒の実態や特性に応じた自立活動を行う。
 - ・GIGA スクール構想に伴う1人1台のタブレットやVRゴーグル・アバターロボット・視線入力装置等のICT機器を積極的に活用し、児童生徒の可能性を広げる。
 - ・スパイダー・移動式スパイダー・移動支援機器・スヌーズレン等を積極的に活用し、自立活動の指導の幅を広げ、充実させる。また、活用の好事例を蓄積する。

3.【組織】質の高い教員集団の実現(組織力の向上)～学校組織として支援教育の専門性を高め、一人ひとりの教職員が学び続け、チームで協働できる学校～

- (1)全教職員のスキルアップ研修と次世代育成継承システム(OJT)を充実し、学校組織として支援教育の専門性を高める。
 - ・教職員の研修形態を「全校研修」と経験年数や課題別等の「ニーズ研修」の両輪で展開するため、「光陽研修ライブラリ」を充実し、組織として専門性向上を実現する。
 - ・全教職員が、「なぜ」「何のために」を大切に、学年内での日常的な次世代育成継承システム(OJT)を充実させる。
- (2)組織としての「引継システム」を促進する。
 - ・定期的な「整理整頓」の実行をおこない、校務のスリム化を促進する。
 - ・授業の「年間計画」「学習指導案」「教材教具」を整理して「光陽教材ライブラリ」を充実し、効率的に授業準備ができるよう活用する。
- (3)教職員が「教職員としての根幹の業務」に専念できるように「教職員の働き方改革」を推進する。(校務の効率化・労働衛生安全体制の充実)
 - ・教職員が心身ともに健康な状態で児童生徒に向き合い指導・支援するために、全ての教職員が自らの責任を果たし、「働きやすい職場環境作り」を促進する。
 - ・児童生徒・教職員にとって「安心安全な移乗支援」が実現するように、リフト等の導入を行い、多職種チームで検証を行いながら、組織としてリフト活用を推進する。

4.【発信】多様性社会の推進と実現(発信力の向上)～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、多様性社会の実現に使命が発揮できる学校～

- (1)「学校間交流」「居住地校交流」等について進化・深化させ、SDGsの視点も取り入れながら、「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進を行う。
 - ・「学校間交流」「居住地校交流」について、双方の学びを社会に発信することで、「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮する。
- (2)「地域に開かれた学校作り」実現のため、保護者・地域住民・地域小中学校・関係機関との協働を推進し、併せて「支援教育のセンター的機能」を発揮する。
 - ・地域支援については、支援教育コーディネーターに加えて校内教職員の専門性を活用し、学校全体で「支援教育のセンター的機能」を発揮する。
 - ・光陽支援学校の実践を「光陽 GoGo フェスティバル」等で、保護者・地域幼稚園小中学校・地域住民・福祉や医療関係者等へ発信し、連携を充実する。
- (3)児童生徒・教職員が光陽支援学校の取り組み・実践・自らの学びを積極的に発信し、「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮する。
 - ・教職員は、自分たちの実践について「わかりやすく伝える力」を強化し、「研修会」「実践協議会」等の機会を積極的に活用し、校内外へ発信する。
 - ・児童生徒が「ポッチャ大会」「ロボットプログラミング選手権」「絵画コンクール」「スピーチコンテスト」等の機会を活用し、積極的に挑戦できるよう組織として支援する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和6年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R5年度値]	自己評価
<p>1 安全安心力の向上 【安全安心な校内体制構築の実現】</p>	(1) 人権尊重の教育推進	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒に使用する「ことば・行動」と同僚間で使用する「ことば・行動」の質を高める。 教職員のいじめ等への認識を高め、予防(仲間づくり等)に係る実践をさらに進める。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校研修1回で外部講師招聘。 毎月の学年会等を活用して、「ことば・行動」について振り返り、課題ケースは即時対応。 学期ごとに好事例等をまとめて実践に活かす。 <学校教育自己診断の関連項目で教員の肯定評価、人権:90%以上、いじめ:75%以上 [人権:肢 89.3%、病 87.6%、いじめ:肢 75.7%、病 68.8%]> 	
	(2) 心身の健康を守る教育の推進	<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒のいつもと違う姿は、報告・連絡・相談の徹底。インシデント・アクシデント生起時は、「正確な事実確認」と「原因分析」「具体的な改善策」をチームで迅速に対応。 安全安心な医療的ケア実施のため、教育的意義や基礎知識の向上にむけた研修の実施、教員と看護師の協働実践をまとめた校内研修会(事例発表)の実施する 改訂した人工呼吸器使用児童生徒の対応マニュアルにもとづき実践を重ね検証を行い、専門性を高め学校全体のより良い医ケア体制を構築する。 	<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> インシデント・アクシデント生起後、必要に応じて症例検討。確認事項は、朝礼等で全体共有。(継続) 研修会の実施年2回(基礎研修1回、事例研修1回) 教員と看護師の協働実践1事例を教職員研修として実施。(現状維持) 医療的ケア安全委員会での検証、検討年3回。 <学校教育自己診断の教職員の関連項目 肯定的評価 70%以上[肢:90.3%、病:37.5%]> 	
	(3) 危機管理体制の強化	<p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大阪市指定避難所としての運営を含め、授業時、休日、夜間等場面に応じた防災対応マニュアルの検討、作成を行う。 大災害に備え、旭区や地域自治会、分教室では病院と協力したりして、組織として準備する。 <p>・教職員が安全な環境づくりの意義について再認識できる取り組みを行う。校内の安全点検を充実させ、危険箇所や備品の故障等への迅速な対応を行う。</p>	<p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「大災害発生」を想定した模擬訓練(関係機関含)実施1回。 保護者への児童生徒の引継ぎ訓練を実施、1回。 地域関係者との連携会議年3回、病棟関係者との連携会議2回 <学校教育自己診断の教員の関連項目で肯定的評価 70%以上[肢:67.5%]> 毎月安全点検の実施 不要物品・備品等の把握と廃棄計画の作成。 <学校教育自己診断の教員の関連項目で肯定的評価 60%以上[肢 55.3%、病:56.3%]> 	
<p>2 授業実践力の向上 【質の高い授業実践の実現】</p>	(1) 個のニーズの実現	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「光陽グランドデザイン」をあらゆる場面で意識した教育を実践する。 キャリアプランニングマトリクスの完成とそれを意識した教育実践の推進。 「個別の教育支援計画」(R5から新様式)活用し、キャリアプランニングマトリクスを意識した個別の教育支援計画の長期目標を策定するなど、個のニーズを実現にむけた取り組みを行う。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究授業時の学習指導案や授業略案などに「光陽グランドデザイン」やキャリアプランニングマトリクスとの関連付けを明記し実践できたか。 <p><個別の教育支援計画、個別の指導計画の活用について、学校教育自己診断の教員の関連項目で肯定的評価 90%以上[肢:85.4%、病:93.8%]></p>	
	(2) 質の高い授業実践	<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業振り返り研修会」「教職員の授業参観週間」を充実させる。授業参観シートを改善し活用することで意見交換を活性化し、学びを「明日からの授業」に活用する。 授業「光陽いいとこ集め」を引き続き蓄積する。 10年経験者研修等を活用した「公開研究授業」を実施し、モデルリーダーとしての授業改善を進める。 質の高い授業作りのため、全校研修会で学び、授業改善につなげる。 病弱教育における教科指導力をさらに高め、教科書改訂等に伴う必要書籍や研究書籍等を確保し研究を進める。 肢体不自由教育部門と病弱教育部門の教員が相互に学びあう機会を広げる。 	<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業振り返り研修会」1回、授業参観週間1回の実施。(肢体不自由教育部門と病弱教育部門教員の実践交流含む) 授業参観シートを観点別等に改善 「光陽いいとこ集め」を継続し、首席や指導教諭から各学部会等にて共有。 「公開研究授業」3回以上実施(現状維持) 研修・研究に必要な書籍やアプリケーション等を選定し充実をはかる。 <学校教育自己診断の教員の関連項目で肯定的評価 90%以上[肢:85.4%、病:93.8%]> 	
	(3) 自立活動の充実	<p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 肢体不自由や病気のある児童生徒の実態や特性に応じた自立活動を行うため、自立活動に対する基礎知識を底上げするための手立てを検討する 実態把握、目標設定や評価の方法についての研修や、福祉医療人材によるPT、OT、STからの助言を共有する方法を検討し、活用を充実させる。 個別の指導計画の目標に基づき、移動式スパイダーや移動支援機器・スヌーズレン・アバターロボット、メタバース等の機器を積極的に活用し、評価を行う。 	<p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内研修年2回以上、1回は外部講師による研修を行う。 <p>・学校教育自己診断に項目を設け、肯定的評価、教員、保護者ともに70%以上 *R5までは、学校経営推進費「光陽 GOGO プロジェクト」としての評価</p>	
<p>3 組織力の向上 【質の高い教職員集団の実現】</p>	(1) 教職員の専門性向上	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「光陽研修ライブラリ」システムのサイト運用と活用に向けた準備を進める。各分掌等で活用方法を検討する。 全教職員が「なぜ」「何のために」を意識した学年・学部内での日常的な次世代育成継承システム(OJT)を充実させる。(学年会や学部研修会の充実と活用)(継続) 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ライブラリの保管、整理ルールを作成。 各分掌での活用年1回以上、新たなコンテンツのアップロード年1つ以上 経営会議で実施状況の把握、学期に1回。研修後のアンケート等でニーズや改善ポイントを探る。 	
	(2) 引継システムの推進	<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校 ICT システムの更新にあわせて、共有フォルダを整理し、校内でルールを定め同じ整理方法で整理できるようにする。 「光陽教材ライブラリ」のさらなる充実とシラバスとの関連付けた活用を促進し、効率的に授業準備ができるよう活用する。 	<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断の教員の関連項目、肯定的評価、60%以上[57.5%] <p>・学校教育自己診断に活用に関しての項目を設け、教員の肯定的評価、60%以上</p>	
	(3) 教職員働き方改革推進	<p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校務のスリム化、効率化について、運営委員会 B 等で検討する。 以下の3点を意識して教職員が心身ともに健康な状態(Well-being)で、「働きやすい職場環境作り」を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 「仕事の時間を区切る」(毎週水曜日全教職員定時退勤) 「仕事のスリム化を行う」(ICTを活用した校務の効率化) 「仕事の仕方を変える」(発想の転換・業務連携) 「光陽ふわりほっと」を活用して、教職員同士が互いに認め合いそれを共有することで、気持ちよく働きやすい環境づくりを行う 移乗リフト等について、多職種チームで検証を行いながら、組織としてリフト活用を推進する。 	<p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学部、年間を通し1項目以上業務内容を簡素化・削減できそうな項目を挙げ計画をたてられたか。 <学校教育自己診断の教員の関連項目、肯定的評価、60%以上[57.5%]> <p>・「ふわりほっと」事例、年間 40 以上</p> <p>・担当首席と安全衛生委員会を推進メンバーとして、継続してリフト活用の成果を「児童生徒」と「教職員」の両面から整理をし、活用の集約を行う。</p>	

4 発信力の向上 【多様性社会の推進と実現】	(1) 交流および共同学習の充実	(1) ・「学校間交流」「居住地校交流」のさらなる充実。「出前授業」を行い、交流後の「相互の学びや気づき」を学校間で互いに発表、共有しあう。 ・「届けよう服のチカラプロジェクト」4年目の取り組み実施。交流校や地域と協働して取り組む。	(1) ・「対面交流」「オンライン交流」を併用して、学びを深める。 ＜学校教育自己診断の関連項目、肯定的評価保護者肢:90%以上(維持)病:67%以上、教員肢:90%以上(維持)病:70%以上〔保護者肢:95.7%、病:66.7%、教員肢:94.2%、病:62.6%〕＞ ・相手校(教員、児童生徒)にアンケートを実施し学びや気づきについての肯定的評価 70%以上。 ・「届けよう服のチカラプロジェクト」協働校等、4校。
	(2) 地域に開かれた学校作りセンター的機能の発揮	(2) ・「授業実践・教職員研修」について積極的に地域へ公開(オンデマンド研修等)するとともに、コーディネーターによる地域支援も含めたセンター的機能を発揮する。 ・近肢研、大肢研(自活研)、大阪府造形研の幹事校として、研究大会や展覧会の円滑な運営を行うため校内外で組織的に取り組む	(2) ・「公開研修」を3本以上実施。 ・「光陽 GoGo フェスティバル」の開催 ＜学校教育自己診断の関連項目、肯定的評価教職員肯定的評価 肢:85%以上(維持)、病 60%以上、保護者 肢:75%以上(維持) 病:55%以上〔教職員 肢:85.4、病:56.3%、保護者 肢:78.6% 病 50%〕＞ ・各研究会等の事後アンケートで、運営に関する項目の肯定的評価 70%以上
	(3) 実践や教育活動の積極的発信	(3) ・保護者、特に病弱教育部門の保護者に対して、ブログ等も活用して学校の取り組みを積極的に伝える。 ・教職員は、自分たちの実践について「わかりやすく伝える力」を引き続き高め、「研修会」「実践協議会」等の機会を積極的に活用し、校内外へ発信する。 ・児童生徒が「ポッチャ大会」「ロボットプログラミング選手権」「絵画コンクール」「スピーチコンテスト」等の機会を活用し、積極的に挑戦できるよう組織として支援する。	(3) ・学校教育自己診断の保護者の関連項目、肯定的評価、肢:80%以上〔78.5%〕 病:55%以上〔50%〕 ・研究会等校内外で実践発信。学校(個人・グループ)から3実践は、校外へ発表。(維持) ・大会等への出場、年間で5以上〔5回/年〕(維持)